

石狩の海の色



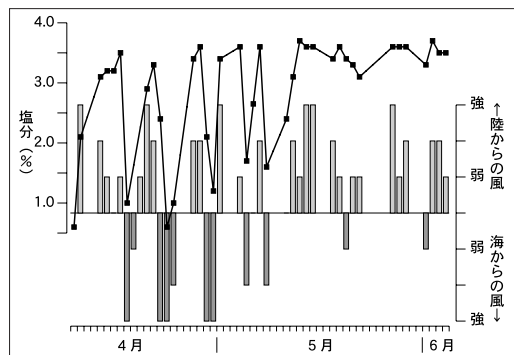
←水平線（灰色）
←色の境界線（青色）

石狩浜から見た海。手前が青色、沖は灰色をしています。

石狩浜から海を見たとき、海の水の色が2色に分かれているのに気付いたことはありませんか？

手前の海水は青いの、沖のほうはなんだか灰色っぽいー晴れた、風が穏やかな日は、そんな現象がはつきりと見られます。かと思えば、はるか沖まで青い水が広がったり、浜辺まで一面、濁ったような灰色になってしまうこともあります。いったい何が起きているのでしょうか。

その原因を究明するため、石狩浜で海の観測を開始しました。まだ2カ月ですが、早くもちょっと変わった結果が出てきました。塩分濃度、つまり海水の塩辛さが、薄まったり濃くなったり、を繰り返していることが分かったのです。ふつう海水の塩分濃度はどこでも3.5%くらいです。しかし、石狩浜では急に薄くなって、1日で0.5%まで下がってしまったたり、また元に戻ったり、ということが何度もあったのです。その原因は？海の色の変化と、何か関係が？

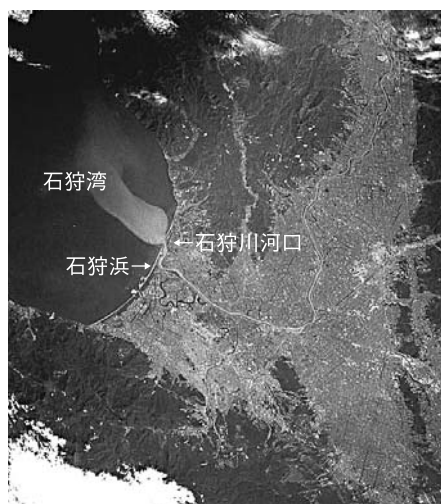


浜辺での塩分と風の変化。海からの風が強いときに塩分が薄くなっています。

灰色に濁り、塩分も薄くなる→海からの強い風が吹くとその水が浜辺に吹き寄せられる。海水の色、塩分濃度、風の3つから、こんな川と海と空のつながりが見えてきました。

実は、この観測で使っているのは、普通の温度計と料理用の塩分計、それにポリボトルだけ。根気さえあれば誰でもできます。見なれた自然もきちんと観測し続け、記録を残していけば、地球のしくみを理解して将来を予測するための大切な基礎データとなっていくのです。

(志賀健司)



宇宙から見ると、たくさんの土砂が石狩川から海に流れ込んでいることがよく分かります。

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館 ☎62-3711

✉i-museum@bz01.plala.or.jp

■石狩浜海浜植物保護センター ☎60-6107

✉ihama@city.ishikari.hokkaido.jp